

雲仙市橘湾地区中小型まき網漁業ビジネスモデル計画

背景

【策定：雲仙市雇用型漁業ビジネスモデル構築推進・普及会議】

雲仙市橘湾地区において、中小型まき網漁業は、同地区の一般漁業における総水揚量2,989 tの約64%(1,907 t)を占める基幹産業(H29年度)。標記ビジネスモデル計画を実践する経営体が主対象魚種とするカタクチイワシの資源水準は低く、今後の漁獲高は不透明。安定した経営を維持していくため、複合的な漁業展開、加工・観光事業と組合せた多角的な経営に取組み、収益性の高いビジネスモデルを確立・実践していく必要がある。

課題



漁獲の安定確保

カタクチイワシのH29年度の資源水準は低位、動向は横ばい。今後の漁獲高は不透明。



付加価値の向上

脂イワシ（冬、春季）の煮干は通常と比べ価格が1/2、餌用で1/3に下落。定置網漁獲物は多種少量のため、低価格での取引。



漁業の魅力発信

世界文化遺産登録等、島原半島で観光客増の見込み。H28より取組む漁師体験は周知不十分で利用者少ない。施設や人的に受入れ体制不十分。



雇用の確保と改善

従業員の高齢化（約半数が60才以上）、加工・観光事業の拡充強化に向け、雇用の確保・増員、待遇改善等が必要。

取組の方向性

「まき網漁業を主体とした複合的な漁業の展開」「加工品製造、販売体制の整備・強化(カタクチイワシ製品開発)」「漁師体験プログラムの拡充(観光協会等との連携)」を組合せた多角的な経営に取組み、収益性向上及び雇用の確保等を目指す。

計画内容

①複合的な漁業の展開

- 脂イワシの時期に、まき網に加え小型定置網漁業等操業。
→定置網漁業等の漁獲高の増加

②加工品製造、販売体制の整備強化(カタクチイワシ製品開発)

- 加工・鮮魚処理施設、機器等整備。イワシ製品開発、販路・販売量拡大。鮮魚直送便（定置網の多種少量魚利用）の販路開拓 →売上高の増加

③漁師体験プログラムの拡充(観光協会等との連携)

- 漁師体験プログラム拡充（対象者拡大、調理体験等導入）。
- 漁業実地研修継続（東京海洋大学の学生受入）。
- 体験者数、プログラム収入増加(60人⇒100人)

④雇用の確保と労働環境の改善

- 新規就業者支援制度の活用、外国人技能実習生の受入。
- 従業員の給与水準向上、魅力的な職場環境等の提供。
- 正規雇用者数の増加(6人⇒10人)

※②で県支援事業を活用予定。

地域を牽引する ビジネスモデルへ

- 収益性の向上
- 安定した経営体制の確立
- 雇用の確保と労働環境改善



KPI (重要成果指標)

- 付加生産額
(営業利益・人件費・減価償却費)
- 正規雇用者数

基準年(直近3年平均) → H33(目標年)

35,265千円 → 49,493千円

6人 → 10人